

体育

教 科	科 目	単位数	履修年次・選択群	履修区分
体育	スポーツ社会学	2	3年次・H1群	選択
使用教科書（出版社）		副教材（準備するもの）		履修の条件・連絡
スラムダンク勝利学 （集英社インターナショナル）				3年次のスポーツ科学系列選択者

1 科目の目標と評価の観点

目 標		
体育の見方・考え方を働かせ、課題を発見し、主体的、合理的、計画的な解決に向けた学習過程を通して、心と体を一体として捉え、健やかな心身の育成に資するとともに、生涯を通してスポーツの推進及び発展に寄与する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。		
評価の観点及びその主旨		
1. 知識・技能	2. 思考・判断・表現	3. 主体的に学習に取り組む態度
スポーツを社会現象の一つとして捉える、あるいは社会における様々な文化や現象を、スポーツを通じて観測することによって理解する力を養う。	人間とスポーツの関わりを多様な視点から検証することによって、スポーツが持つ社会内の役割を認識する。	生涯を通してスポーツの推進及び発展に寄与するための学習に主体的に取り組む態度を養う。

2 学習計画と観点別評価項目

学 習 の 年 間 計 画	学 期	学 習 内 容（単元・項目）	月	学 習 の ね ら い	評 価 の 観 点
	1	第1章 根性は正しく使う 第2章 自主的な目標設定をしよう！ 第3章 目標達成への鍵は、理解と覚悟だ 第4章 心技体を変化させる 第5章 “すべき事” をする 第6章 “今” に生きる！ 第7章 必ず自分に返ってくる！ 第8章 良いところを見る 第9章 “反省” と “確認” は違う！ 第10章 目標に向かって “石” を置いていく 第11章 目標に “情熱” を注ぐ 第12章 チームワークの条件とは？	4 5 6 7	・勝利するための正しい考え方を理解し、自らが行って実践できるようにする。 ・目標を設定し、達成させるためにできることを考えさせる。 ・自分たちの長所を見付け、それを伸ばせるようにする。	1 2 3 1 3 1 2 3 1 3 1 2 3 1 2 3
	2	第13章 本物のチームワークとは？ 第14章 “怒り” の感情をコントロールせよ！ 第15章 あきらめは最大の敵である！ 第16章 不安はどこからくるのか？ 第17章 “大丈夫” と言えること 第18章 感動を与えることの意味 第19章 休養がプラス思考を生む！ 第20章 健康の意味を知る!! 第21章 “3つのCと4つめのC” 第22章 “波を感じる” 第23章 コーチ（COACH）の資質	9 10 11 12	・チームワークについて考え、スポーツ系列の授業に生かせるようにする。 ・全力を尽くすことの重要性を理解し、実践する。 ・健康な体を保つために必要な知識を理解する。 ・正しいライフスタイルの設定を行い、生活習慣をはじめ健康の重要性について考えさせる。	1 2 3 1 2 3 1 2 1 2 3
	3	第24章 結果の捉え方こそ勝負の分かれ目なのだ!! 第25章 誰のため？ 第26章 “感謝すること”こそ勝利と一流への道	1 2	・試合の勝敗について考え、それぞれの意味を理解する。 ・部活動やスポーツ系列の授業を通して学んだことを考え、社会に出てから生かせるようにする。	1 3 2 3 1 3 1 2 3

令和6年度 シラバス

愛媛県立新居浜南高等学校

学 習 評 価	観点	1. 知識・技能	2. 思考・判断・表現	3. 主体的に学習に取り組む態度
	規 準	○スポーツと人との多様な関わり方を説明することができる	○スポーツの人間が関わる際に起こり得る課題に対して、社会理論を用いて具体的な対応策を提示することができる	○授業で扱う内容に関連する参考書および関連文献を授業前に熟読し、授業時に発言、またはリアクションペーパーへの記述に反映できる。
	手 段	・小テストや定期考査の知識問題の解答 ・実技の様子	・計画や発表の内容 ・論述レポートの内容 ・定期考査の論述問題の解答	・授業中の態度の観察 ・提出物の提出状況 ・課題、レポートへの取組の評価
	単元末や学期末及び年次末における評価の総括方法		・授業や提出物、定期考査における「知識・技能」「思考・判断・表現」「主体的に学習に取り組む態度」から総合的に評価する。	
	学習上の留意点	・定期考査は5回実施する。教科書と学習プリントで授業を展開するので、予習復習を行うこと。 ・授業で配布した学習プリントを評価するため、ノートを用意し整理すること。 ・classroomで配信された課題や提出物は、必ず提出すること。		